不安

影の想い

P.N モリヤ
（森田沙彩）

人物

及川正樹（おいかわまさき）（４０）刑事

及川順平（１７）及川の息子

槍田舜（やりたしゅん）（３２）及川の同僚刑事

及川加奈子（４０）及川の妻

警官１

警官２

教師

上司

○繁華街・路地裏

雑居ビルが並んでいる。１つのビルの前で包丁やバットを持った男１０人を次々空手でなぎ倒していく、紺のスーツに『ＰＯＬＩＣＥ』と印字されたジャンパーを羽織った及川正樹（４０）。

及川、腕時計を見ながら、

及川「１５時２０分、大麻密輸の容疑で逮捕」

警官数名が取り押さえていく。

及川、路地の奥にいるホームレスに近づき、懐から財布を取り出す。

及川「今夜は雪予報だ。この金でどこか泊まりなさい。あと、ここの自治体に行けば保護してくれる」

と、１万円と自治体の住所が載った紙を渡す。

警官１「また渡してるよ。無駄なのにな」

警官２「しょうがねぇよ。正義感の塊みたいな人だからさ」

警官１「確かに。あの姿あって及川さんか」

礼をするホームレスと、笑顔の及川。

○高尾西高校・外観

○同・廊下

多くの学生が歩いている。その中に教材を抱えた教師と、片脚を少し引きずる笑顔の及川順平（１７）。コートを着た制服姿、ヘルプマークの付いたリュックを背負っている。

○同・職員室

机に教材を置く教師と順平。

教師「いつも助かるよ。あ、誰かと帰る約束してたか？」

順平「待ち合わせなんで大丈夫。じゃ！」

教師「おう。受験勉強頑張れよ！」

会釈し、職員室を出ていく、順平。

○及川家・玄関・外（夕）

一軒家。玄関脇に車庫に入った赤の軽自動車。

ドアを開け、入ろうとする、順平。

順平「ただいまー」

背後に全身黒ずくめの包丁を持った古谷裕也。順平を押す。

○同・中（夕）

順平振り返り、古谷と揉み合う。

順平、包丁を取り上げようとするが、片脚が揺らぎ、体制を崩しながら古谷の腹に刺す。倒れる、古谷。

リビングから顔を出す、エプロンをつけた及川加奈子（４０）。

加奈子「なにドタドタして」

と、加奈子、１歩下がり腰が抜ける。

順平、血で塗れた包丁を持ったまま、
その場にしゃがみ込む。

○八王子警察署・正面入り口・外（夜）
ドアの脇に『八王子警察署』の看板。
入口から出てくる、バッグと黒のダウンを着た、及川。

○及川家・玄関・外（夜）
真っ暗な及川家。及川、家を見上げ、
首をかしげながらドアを開ける。

○同・中（夜）
ドアが開き、中に入る及川。
及川、周りを見渡しバッグを落とす。
及川「おい、大丈夫か。何があった」
順平、ゆっくり及川を見て、
順平「分からない。突然こいつがこれ持って
押してきて、ヤバいって思ってたら」
順平、包丁を落とし、頭を抱え俯く。

加奈子、膝で歩き、及川の服を掴む。
加奈子「ね、正当防衛よね？1月には受験があるし、脚だって悪いのよ！」
及川、古谷の遺体を見て、両手で頭を抱える。ゆっくり何度も頷く。
及川「分かった。大丈夫だ。なんとかする」
及川、順平と加奈子の肩を叩き、家の中に上がる。

○及川家・車庫・外（深夜）
雪が降っている。
及川と順平、周りを見渡しながら、布団に巻かれた遺体を車に積む。
及川と順平、車に乗り、走り出す。

○森林・平坦な道（深夜）
道の脇に空き地。及川の車が停まっている。縦２ｍで浅めの穴に遺体。
シャベルで土をかけていく、及川。
脇に立つ、血塗れた両手を握る順平。

及川「帰ったら風呂に入って寝て、目が覚めたら陽が上がってる。何も変わらない」
順平の背を叩き一緒に立ち去る及川。
土の隙間からワイヤレスイヤホン。

○及川家・玄関・外（朝）
ドアから出てくる、ゴミ袋を持った加奈子。近所の人に笑顔で挨拶をする。
その後から制服姿の順平とスーツを着た及川、加奈子に笑顔で挨拶をして立ち去る。

○八王子警察署・刑事課
入口前の棚の上に『刑事課』の札。
机が整然と並んでおり、制服を着た人がまばらにいる。
椅子に座ってガムを噛み、スマホを観ながら貧乏ゆすりをしている槍田舜（３２）。
槍田の頭を、上司が書類で叩く。

上司「馬なんか観てないで仕事だ、仕事」
槍田「おあー！勝った！当たった！」
と、飛び跳ねる。
上司、顔写真と一緒に『得意行方不明者　古谷裕也』と記載された書類を槍田の顔に叩きつける。
上司「特異行方不明者だ！高校生で昨日から音沙汰なし。置手紙有り。他に回すぞ」
槍田、書類を勢いよく奪う。
槍田「あー！すんませんでした、やります！事件の可能性があるってことですよね」
上司「スマホは自宅にあったから、位置情報の特定ができない。頼んだぞ」
槍田「はい！よっしゃ！」
上司「今回がラストチャンスだからな。また誤認逮捕したら、即、即！移動だ」
槍田、何度も頷き、出ていく。

○同・食堂

テーブルで書類を見ながら、カツ丼を食べている、槍田。

向かいに及川が蕎麦を置き、座る。

及川「ラストチャンス、なんだって？」

槍田「あ！ちょっと助言いただけます？」

及川「ふ、もう根を上げたのか」

資料を覗き込み、目を見開く、及川。

槍田「最後の目撃は駅員。防犯カメラで追っているんすけど、住宅街近辺で詰んでて」

及川、身なりを整え、蕎麦を食べる。

及川「捜索範囲が広がると情報が多くなる。それまで出来ることを頑張るんだ」

槍田、書類を手に取り項垂れる。

○コンビニ・入口・外（夕）

肉まん片手に出てくる制服姿の順平。

防犯カメラの下、店員とメモを取る槍田。

順平、肉まんを強く握り、俯きながら立ち去る。

○及川家・リビング（夜）

食卓を囲む、及川、加奈子、順平。

及川、加奈子、サバの身を解し、食べている。順平、箸を持ったまま微動だにしない。

加奈子「どうしたの？あ、まだ生だった？」

順平、箸を勢いよく置き、頭を掻きむしる。

順平「もう、無理だよ。変だよ、なんで普通の顔出来るわけ。自首、自首したい」

加奈子、勢いよく立ち上がる。

加奈子「自首って」

及川、箸を強く握り、立ち上がるが、座る。俯きながら、

及川「苦しいか。正当防衛だとしても」

順平、しゃっくりをあげ泣き始める。

順平「人を、人を殺し」

加奈子、順平を抱きしめる。

及川、立ち上がり抱きしめようとするが、止まり、ゆっくり両肩を掴む。

及川「自分を守ったんだ。人を殺そうとした奴に、人生を狂わせては、狂わせて、は」

と、俯く。

○同・寝室（夜）

ベッドに座っている及川、横になっている加奈子。及川の膝の上に木箱。中に血塗れた包丁。ベッド下に隠す。

加奈子「ネットでね、正当防衛でも、過剰防衛となるものがあるって。…順平は」

及川「…初めて自分の性格を憎んだよ」

と、寝転び、加奈子に背を向ける。

○森林・平坦な道

パトカーが数台止まっている。

バイクと犬を連れた男性と槍田、足元には土からはみ出た、府川の靴。

槍田の手には土が付いた、ワイヤレスイヤホン。

靴のそばで犬が吠えている。